



南っ子だより



学校教育目標 「共に輝く たくましい 南っ子」

重点目標 「あふれる笑顔 熱い瞳 まぶしい汗」

文責 森 佐和子
伊豆市柏久保 425-1
0558-72-0149

考えていける力

伊豆市立修善寺南小学校長 堀江 健司

土日だけ混むと思っていましたが、平日でも伊豆縦貫道や修善寺道路は渋滞が発生しています。ご存じの河津桜渋滞です。まだまだ寒さが続く中、濃いピンクの桜が咲き誇る川沿いの風景と黄色い菜の花のコントラストは、いち早く春を感じたい人々へのインパクトは強烈でしょう。マスクでもよく取り上げられ、一層拍車がかかっています。河津まで行かなくても狩野川沿いに河津桜の並木があるのでそれで十分かと思いますが、きっとあのテレビに出る風景がいいのでしょう。



さて、表題の件ですが、以前に書いた仙台育英高校の須江監督の話と共通する部分があるかもしれません。辻正人さんという少年野球チームの監督の話です。人口7500人ほどの小さな町でそのチームには120名もの選手が所属しています。所属選手の減少で統廃合を繰り返すスポーツ少年団が多いと聞きます。そんな中、楽しさと強さを兼ね備えたこのチームの人気要因は何か探ってみました。

＜大人からの指示、命令を受けない野球＞

指導者がサインで選手を動かすのではなく、選手自身が判断して他の選手とコンタクトをとりプレーすることを目指しています。ノーサイン野球ですが、選手が好き勝手にやるのではなく、普段からノーサインに必要な野球脳を鍛えているそうです。実践練習だけでなく、座学でどんな戦術や戦略があるか子供たちに伝えています。小学校低学年も対象で、保護者にも参加を促しています。

＜チームに入りやすくやめやすい雰囲気＞

辻監督は保護者に「お子さんに合わないと思ったらいつでもやめられます」と言うそうです。また、「家族や学校の行事があったら遠慮なく練習を休んでください」とも伝えています。そして、髪型や練習の服装も自由だそうです。

＜怒声罵声、長時間練習は一切しない＞

長年続いてきた慣習が残っている部分もあるが、これらはやる気や楽しさを奪うものでやらないし、それどころか意味のない声出しもしないそうです。「声を出すのは目的があるからです、意味のない声出しは体力や集中力を欠くだけで逆効果」とも言っています。

最も感銘を受けた辻監督の言葉をそのまま引用します。

「野球が上手いからと言って何の役に立つのですか？プロになるのはごくわずかで、大半の選手はどこかのタイミングで野球を辞めます。大切なのは、上手くなるために何が必要なのか、何が足りないのか、他者との違いや自分の強みは何なのかを自分自身で見極めてプレーし、野球を終えた時に何が残っているかです。子どもは単なる楽しさから深い楽しさを自らで見つけ、考えていける力を育てていく。そんな形を指導者が提供することが、本来のスポーツの役割だと信じてなりません」

自分は、少年団スポーツの在り方に意見しようというつもりはありません。任意の団体であるので、それぞれの団体の方針で活動することに何ら問題があるわけでもありません。この話題を出したのは、この辻監督の「考えていける力を育てていく」方針が、学校教育で目指しているものと合致するからです。子供たちはいずれ大人の手を離れ、自分で生きていきます。そのときに必要な力を授業や生活で身につけていくことが学校の役割でしょう。



1年間の成長



令和5年度も残り一ヶ月となりました。授業での子供たちを見ると、一人一人また集団としての成長を感じます。友達と一緒に活動する楽しさ、できることが増えた喜び、思うようにいかなかった悔しさ…いろいろなことを経験して、一回り二回りと大きく成長した南っ子たちです。芽が出て花が咲くタイミングは人それぞれ。自分らしさあふれる色の「花」を咲かせる日が楽しみですね。子供たちには次の学年・学校での「自分」に期待してほしいと思います。今年度の学びは必ず来年度につながります！



～手作りの雑巾をいただきました～

2/21、駅前地区「つたの葉クラブ」の皆様から手作りの雑巾をたくさんいただきました。お話によると、平成12年から23年間に渡り学校へ雑巾を寄付する活動を続けられているとのことでした。南っ子たちは清掃に力を入れ、雑巾がすり減るまで使っています。きっと今使っている雑巾もつたの葉クラブさんが作ってくださった物かもしれません。大切に使用させていただきます。ありがとうございました！



予告なし！避難訓練

突然大きな地震に見舞われたら、大人でもパニックになると思いますが、子供たちの学校生活時間帯だったら…それも授業など先生や友達など集団でいる時間ではなく、個々で動いている休み時間だったらどうなるでしょう。いつ起こるかも分からない地震を想定し、今回は子供たちに「予告なし」で休み時間に避難訓練を実施しました。3月は東日本大震災のあった月でもあります。また元旦の能登半島地震の記憶は新しく、映像でその恐怖を目の当たりにしました。長期に渡る避難をされている方、懸命の復旧作業にあたられている方の再建に向けて厳しい道のりが続いているニュースを聞くと、自分たちはどう備えるべきか考えさせられます。

「自分の身は自分で守る」…今回の訓練の感想について子供たちに聞いてみました。

【運動場で遊んでいた子供】

まず頭を守った。近くの友達に声を掛けて、その場に座った。揺れが収まった放送を聞いて、指定された場所に避難して、並んだ。

【教室・廊下にいた子供】

(教) 机の下にすぐもぐった。先生の机にもぐった。
(廊) 隠れるところがなくて困った。教室に戻った。

★先生がいない所でも子供の判断で避難できたことが素晴らしかったと思います。



今後の予定等については、すぐ一で連絡をさせていただきます。